

2021年度 第11回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇開催日時 2022年2月10日(木) 19時～21時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 16名
(学生・ESD連続セミナー受講現職教員、ESDサポーター受講者等)
- ◇内容 ESD実践報告の相互検討会

●生物基礎(LHR)「循環型クラスを実現させよう～モロッコとの交流を通して～」

東海大学山形高等学校 川合真澄先生

【実践概要】

年度当初、公益財団法人五井平和財団から声がかかり、「モロッコのエコスクールとSDGs、環境を通じた交流」の依頼があった。

→ 「環境保全」と「国際交流・国際理解」をテーマとしてESDの実践しよう

- ・モロッコのモハメド6世環境保護財団が指定するエコスクールとのビデオレター交換
授業(生物、LHR)の中で、山形、自分の住む地域、学校の環境、環境を守るための取り組みなどを調べ、まとめる。ビデオを作成に向け、台本作成、撮影、動画編集を生徒のみで行わせ、これをモロッコのエコスクールに送る。

- ・ゲストティーチャーに話を聞く

1) 岩間ひかる氏…モロッコ在住で、サハラ砂漠にエコファームをつくる挑戦をしている

モロッコの文化、環境を学び、理解、自分たちが住む地域と比較する

「日本だけでなく。海外や様々なところに目を向けていきたいと思った。」

「毎日暑く、雨も降らない環境の中で、適した暮らしをしていることがわかった。」

「土地の特徴を活かして、水を利用したり、太陽光発電で電力を生み出していることに驚いた。」

「モロッコやサハラ砂漠の気候や文化、生活について学べた。」

「環境を大切に生活したいと思った。」

「少しでも国際問題に目を向けることが大事だと思った。」

「日本とモロッコの違うところや、共通点もあり、新鮮だった。」

「“モロッコでは降水量が少ない”という気候を生かした太陽光発電が行われている」ことに驚いた、という内容の気づきが多かったため、山形の気候を生かした自然エネルギー・再生可能エネルギーなど、環境に配慮したエネルギー利用を重点に置いて進められるいいきっかけとなった。

2) 佐藤翼氏…イマココ電力(熊本)

山形の自然、気候に合った発電方法や環境保全の例を学ぶ

「地球温暖化という言葉は今まで聞いていたが、深く理解していなかった。地球温暖化が自然にどのような影響をもたらすのかを初めて聞いた内容もあり、理解することができた。」

「自然エネルギーやそれを使った発電について、考えるいい機会になった。エコに対する常識が覆されるようなこともあった。」

「エネルギー一つとっても、様々な問題があり、生活の中でのエネルギーの使用について考えることができた。」

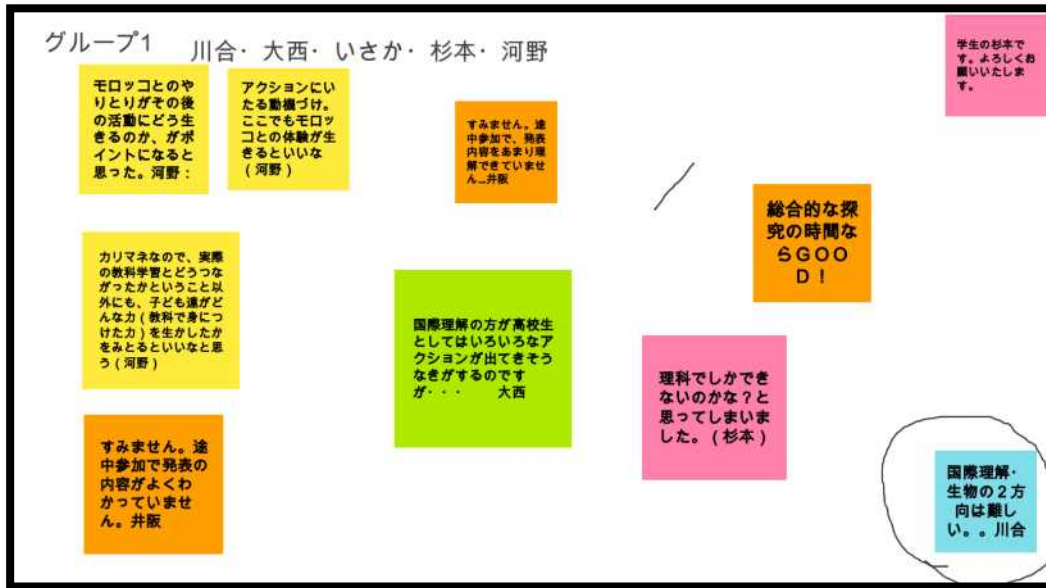
「今後、エネルギーのことを考え、自分にできることを模索していきたい。」

「地球温暖化防止のために気を付けていることはあるが、それ以外にももっと様々な面で気を付けなければならないと感じた。」

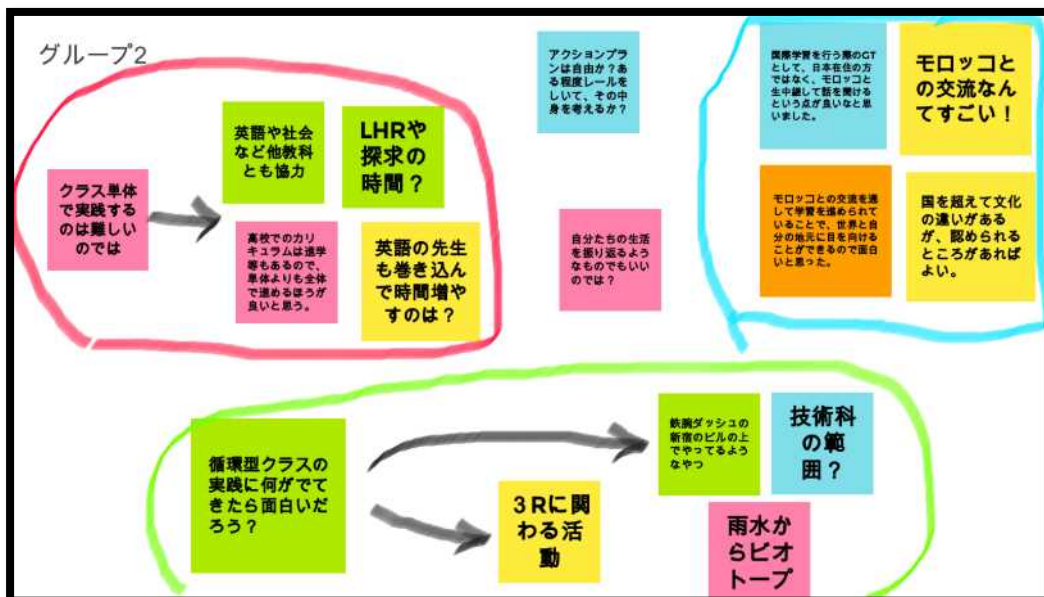
今後、クラスや学校でできる環境保護のアクションプランを作成し、実践させていきたい。

【意見交流】

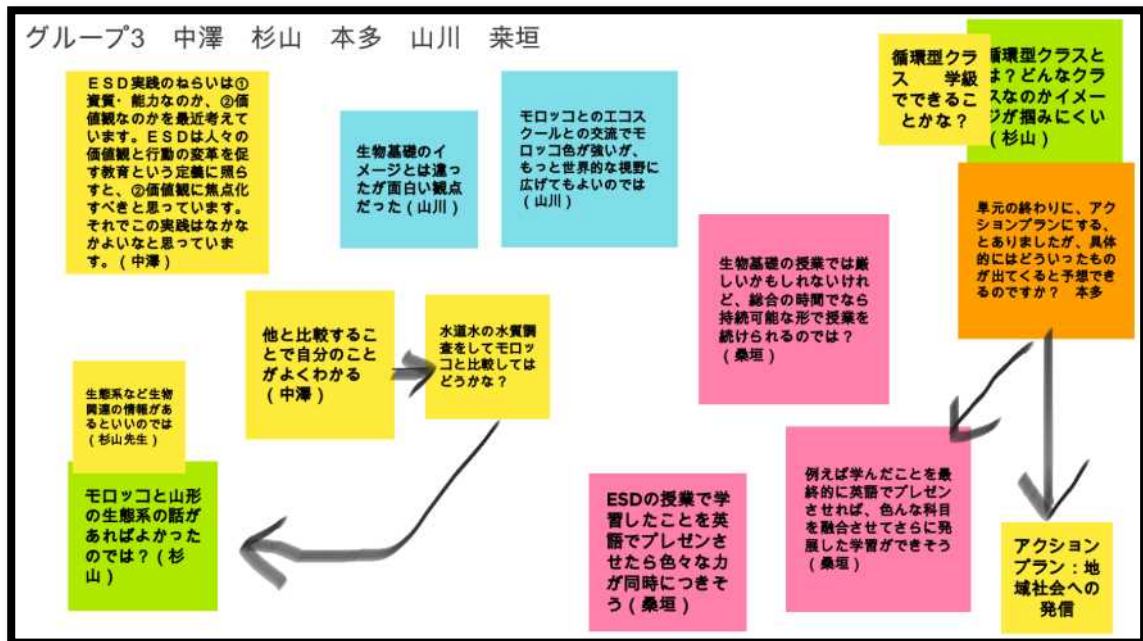
今回初めて Jam Board を使ってグループごとに意見交流し、それを見ながら全体共有した



- ・やはり、生物の授業として進めるのには無理がある。
 - 来年度から始まる総合的な探究の時間の先取りとしてなら理解できる。
- ・カリキュラムマネジメントの観点から、他の教科や学校行事との関連が図れるのではないかと。
 - 地理の教員などは興味をもって来て、学習に組み込むことが可能。
- ・アクションプランとして生徒が考えるものとしては?
 - 高校生だからこそできるものを考えてほしい。身近な生活に関わるもの。



- ・循環型クラスの実践で何ができたら面白いだろう？
 - 3Rに関わる活動、雨水からビオトープ、山形だからできること
- ・モロッコとアクションプランについて交流することで、自分たちの課題をより明確にしてほしい。
- ・その後の行動化と振り返り、また継続した取組については、学年をまたいででもやっていきたい。



- ・モロッコは雨があまり降らないということなので、水質調査の山形との比較をしてみてもは？
- ・モロッコと山形の生態系の比較などがあっても面白いのではないかな。
- ・ESD 実践で重要な「価値観の変革」に関連して、なかなかいい実践だと思う。
- ・他の文化を知り、自らの文化について考えるという国際理解の観点からもいい実践と思う。